

過多月経に対するレボノルゲストレル放出性子宮内システムと子宮内膜焼灼術について

Levonorgestrel-releasing intrauterine system versus endometrial ablation for heavy menstrual bleeding
Beelen P et al
Am J Obstet Gynecol 224:187.e1-187.e10, 2021

目的 過多月経の治療は、The National Institute for Health and Care Excellence ガイドラインでは第一選択としてレボノルゲストレル放出性子宮内システム(LNG-IUS)を推奨している。この研究では重症の過多月経(HMB)に対する治療としてLNG-IUSと子宮焼灼術(EA)の比較検討を行った。

研究デザイン オランダの26の病院と一般診療病院で多施設RCTを実施した。妊婦や子宮腔内病変のない34歳以上の過多月経の女性は、LNG-IUSまたはEAによる治療にランダムに割り当てられた。主要評価項目として24カ月後の生理用品への月経血の付着の程度を点数化したもの(PBAC score: 高値であると出血量が多い)で評価された。二次的な評価には、再介入率、満足度、QOL、および性機能が評価項目として含まれた。

結果 研究に登録された270人のうち、132人がLNG-IUSに、138人がEAでの治療群に割り当てられ、実際に結果を検討できたのはLNG-IUS群は122人、EA群は130人であった。治療開始から24カ月後のPBAC

あった。治療開始から24カ月後のPBAC scoreの平均値はLNG-IUS群が64.8、EA群は14.2であった($p=0.87$)。また外科的な再介入を必要としたのは相対危険度が2.64でLNG-IUSが高かった。治療開始から3カ月の時点では、効果の発現はEAのほうが早いと考えられた。二次的な結果では、LNG-IUS群のうち39%の49人がLNG-IUSを除去した。2群で患者満足度、QOLに差は認めなかった。

結論 LNG-IUSとEAの両方が月経量の大幅な減少につながり、QOLも改善し満足度も上昇したが、LNG-IUSの非劣性は証明できなかった。またLNG-IUSで治療を始めた群は、可逆的で侵襲性の低い治療でありながら、EAから治療を始めた群と比較すると追加の治療が必要になるリスクが高かった。この結果により、医師はHMB患者に対して、十分な統計学的根拠のもとLNG-IUSとEAという2つの治療を勧めることが可能である。

(抄訳 高瀬瑠璃子)

婦人科がん患者における bone health と骨粗鬆症のスクリーニング

Bone health and osteoporosis screening in gynecologic cancer survivors
Sobecki JN et al
Gynecol Oncol 160:619.e1-624.e6, 2021

背景・目的 婦人科がんの女性は卵巣摘出術や補助療法に続発して、骨量減少のリスクが高くなる。婦人科がん女性に関するデータをレビューし、骨粗鬆症スクリーニングの必要性について考える。

がん治療による影響

- ・卵巣摘出術: 2015年の研究で、リスク低減両側付属器摘出術(RRSO)を施行した225人に対して中央二重エネルギーX線吸収測定法(DEXA)を施行したところ、骨量減少は56%、骨粗鬆症は12%に生じた。
- ・化学療法: 化学療法単独の影響を調査した研究はわずかであり、さらなる研究が望まれる。
- ・放射線療法: 2020年のシステマティックレビューによると、骨盤放射線療法施行後の婦人科がん女性の骨盤機能不全骨折を調査した38の研究、6,488人の女性のメタアナリシスでは骨盤不全骨折の発生率が19.4%であった。リスク因子は骨粗鬆症、閉経後、糖尿病の既往であった。

骨粗鬆症のガイドライン ASCO は骨粗鬆症性骨折の危険

因子(高齢、喫煙、アルコール過量摂取、非外傷性骨折、性腺機能低下症、両親の股関節骨折歴、閉経後)をもつ患者に対してスクリーニングを推奨している。

婦人科がん女性における骨粗鬆症のスクリーニング 骨量減少のリスクが高い患者は①両側卵巣摘出(BSO)を受けている閉経前女性、②骨盤放射線治療施行後、③骨折のリスク因子を保持する女性(未検査の高齢女性、非外傷性骨折の既往、長期間ステロイド使用、関節リウマチ、喫煙、アルコール過量摂取、低体重、両親の骨折歴)であり、がん治療開始後1~2年以内にDEXAのスクリーニングを推奨する。

結論 婦人科がん患者は治療完了後、早ければ1年で骨量減少を生じる可能性があり、リスク因子を把握し、スクリーニングを適時行うことにより、骨量減少を予防することができるだろう。

(抄訳 下地香乃子)